

7) 熱帯植物試験圃場にて保有する植物コレクションの活用

砂川春樹¹・端山 武¹ 諸見里清香¹・金城めぐみ¹ 具志堅江梨子¹
小原弘之¹・松井 渚¹

キーワード：熱帯花木 熱帯果樹 希少植物 在来野菜 伝統工芸作物

1. はじめに

総合研究所植物研究室は、国内外の貴重な熱帯・亜熱帯植物のコレクションを保有している。これらの植物は、公園内での活用、園芸植物の普及および研究に活用している。今年度の活用実績を紹介する。

2. 調査研究事業への活用

南西諸島における在来作物の栽培試験を実施している。今年度は消失の危機に瀕している在来ダイコンの調査研究を行った（写真-1）。近年、「島ダイコン」と銘打った品種が種苗会社から販売されているが、沖縄県の在来ダイコンとは全く葉身の形状が異なるため、これらの比較試験を行った。



写真-1 開花中の屋部ダイコン
（第二熱帯植物試験圃場）

3. 展示・普及啓発への活用

1) 海洋博公園内における作出新品種の展示。
当財団が保有している植物と植物研究室実験室内で増殖した株の交配種を展示した（写真-2）。



写真-2 植物研究室増殖株であるダイサギソウ とペクティリススザンナエの交配種によって財団が育成した「ペクタベナリア ホワイト グリフィン」（熱帯ドリームセンター）

2) 海洋博公園での展示①やんばるギャラリーで研究員が現地撮影した写真のデジタル展示

植物研究室研究員がやんばるの現地にて撮影した写真をやんばるギャラリーでデジタル展示を行っている（写真-3）。

¹植物研究室



写真-3 植物研究室研究員が現地調査で撮影した写真（台湾エビネ等）及び生息域外保全で増殖した株をやるばるギャラリーにて展示している様子（熱帯ドリームセンター）



3) 海洋博公園内における栽培体験

地元の小学生を対象にやるばるの在来野菜と改良種の比較栽培体験を播種から収穫・調理まで行なった（写真-4）。



写真-4 地元小学生による島ヤサイと改良種野菜の比較栽培体験（熱帯・亜熱帯植物園、ハーブ園横）

3) 沖縄美ら海水族館での在来水草の展示

貴重な在来水草と在来メダカを同じ水槽内で展示した（写真-5）。



写真-5 絶滅危惧種の水草オギノツメ等の展示（財団収集株）（沖縄美ら海水族館）

4. イベントにおける財団コレクションおよび保有株の活用

財団は種子のコレクションおよびツバキのコレクションを豊富に保有しており、それらをイベントに活用した（写真-6, 7）。



写真-6 珍しい種子の標本と解説を付したパネル展示による自由研究の手助けを目的とする展示（沖縄県立美術館・博物館）



写真-7 ツバキ展における財団保有株の展示状況
芳香性の強いヒメサザンカを展示した

5. 外部評価委員会コメント

本来試験圃場は産業振興や亜熱帯地域の都市緑化に活用すべく導入された有用な植物のストックヤードであった。現在の試験圃場は単に生物多様性の保全保存ために管理運営しているように思える。膨大な数の植物を整理し、目的に応じて利用計画、育成計画、繁殖計画などを明確にして管理運営を行うべきである。特にラン類には多くの優良系統があるので積極的に品種改良すべきである。

(花城顧問：一般財団法人沖縄美ら島財団
前理事長)

数多くの植物コレクションの維持・管理、活用、大変なものと察する。また、これらのコレクションのなかから植物を選び、熱帯ドリームセンターや熱帯亜熱帯植物園などでの展示・紹介への活用、いろいろな場面での来園者に見ていただくための様々な工夫を高く評価する。継続的なコレクションの多方面での活用を進めていただきたいと思う。貴重な遺伝資源でもあり、大切に維持・管理を継続していただくことをお願いしたい。

(上田顧問：ぎふワールド・ローズガーデン理事)